



危険度3色に分類

平易な日本語追加

別府市、海拔表示を一新

【別府】別府市は津波災害が起きた際、外国人住民や観光客にもスムーズに避難してもらえよう、市内沿岸部に設置している海拔表示板のデザインを一新した。表示板の色で危険度を判断できるようにしたほか、平易な日本語を加えた。市防災危機管理課は「誰にでも伝わり、とにかく高い場所まで移動してもらえそうなデザインを目指した」と話している。

新しい表示板は危険度に
応じて3色に分類した。津
波ハザードエリア内は「赤」



「目で危険度が分かるよう、海拔表示板を3色に分けた。青の表示板まで避難してほしい」と市職員。別府市役所

「10m以上」への避難強調



新しいデザインの海拔表示板を電柱に張り付ける別府中央小の児童たち＝別府市京町

が避難が必要、海拔10m以上は「青」(安全)で表現。外国人住民に向け英語表記は元々入っていたが、「にげるたかさ」「うみからの高さ」など「やさしい日本語」も追加した。

以前のデザインは1種類で、海拔のほかには学校、公民館など指定の避難所名を表示していた。土地勘のない観光客が多いことを踏まえ、安全の目安となる海拔「10m以上」を強調し、矢印で避難する方向を示している。同課は「特定の避難所へ向かうのではなく、遠くへ逃げることを優先してもらうことが狙い」と説

明する。

同課によると、亀川、浜脇面地域などを除き、海拔10mラインは市内を走るJRの線路とおおむね一致しており、避難する際の目安になる。

事業費は1683万円。設置は1021カ所。3月上旬に完了した。以前の表示板は2011年度に設置し、破損や色あせなど老朽化が進んでいたという。

2月下旬には海沿いに位置する別府中央小(京町)の児童たちが張り替えを手伝った。津波災害について理解を深めてもらうことが目的。同校は津波を想定した避難訓練も定期的に実施しているという。

同課は「南海トラフ巨大地震の発生も予想されている。日頃から備えを進め、有事の際には表示板を目安に逃げてほしい」と呼びかけている。

(横田香成)

別府市によくと、市の人口約11万2千人のうち、外国人住民は約5千人(2月末時点)。英語が通じない外国人も多い。「やさしい日本語」がコミュニケーションの手段として近年、注目されており、県教委などが普及を進めている。



〔問①〕 別府市が市内沿岸部に設置している海拔表示板のデザインを一新した目的は何ですか。

答え 【 津波災害が起きた際、外国人住民や観光客にもスムーズに避難してもらうため 】

〔問②〕 新しい海拔表示板は危険度に応じて何色に分類されていますか。

答え 【 3色 】

〔問③〕 新しい海拔表示板で使われている「やさしい日本語」を挙げてください。

答え 【 にげるたかさ、うみからのたかさ 】

〔問④〕 安全の目安となる海拔はどのぐらいですか。

答え 【 10メートル以上 】

〔問⑤〕 新しい海拔表示版で安全の目安となる海拔を強調し、矢印で非難する方向を示した狙いは何ですか。

答え 【 特定の避難所へ向かうのではなく、遠くへ逃げることを優先してもらう 】

〔問⑥〕 南海トラフ巨大地震の発生が予想される中で、日ごろからの備えを考えてみましょう。

※自由記述